

markdown cheat sheet

- [markdown cheat sheet](#)
 - [Format Text - テキストの装飾](#)
 - [Header - 見出し](#)
 - [Emphasis - 強調](#)
 - [Strikethrough - 打消し線](#)
 - [Details - 折りたたみ](#)
 - [Lists - リスト](#)
 - [Disc型](#)
 - [Decimal型](#)
 - [Definition型](#)
 - [Checkbox型](#)
 - [Blockquotes - 引用](#)
 - [Horizontal rules - 水平線](#)
 - [Links - リンク](#)
 - [Images - 画像埋め込み](#)
 - [テーブル記法](#)
 - [数式](#)
 - [コード](#)
 - [その他](#)

Format Text - テキストの装飾

Header - 見出し

- # : H1タグ
- ## : H2 タグ
- ##### : H5タグ

#の数でインデントや文字の大きさが決まる。

Emphasis - 強調

か*で囲むとHTMLのemタグになる。こんな感じ

か**で囲むとHTMLのstrongタグになる。要するにbold。こんな感じ

Strikethrough - 打消し線

打消し戦を使うには~~で囲む。~~こんな感じ~~

Details - 折りたたみ

追加情報としたい内容をdetailsタグで囲む。そして、要約として表示したい文章をsummaryタグで記載する。

折りたたんだ部分でMarkdownを使いたい場合は、折りたたまれる部分全体をdivタブで囲む。

▶ ここにたたむ前から表示される文章

Lists - リスト

箇条書きをする

Disc型

- 文頭に「*」「+」「-」のどれかを入れるとDisc型になる
- 記号の次に空白を忘れないように
- リストを挿入するときは、リストの上下に空行がないと正しく表示されないかもしれない

Decimal型

1. 文頭に「数字.」を入れるとDecimal型になる。
2. Markdown上では1. 1. 1.でも行ける。表示では1. 2. 3.となる。
3. 「数字.」の次の空白を忘れずに

Definition型

HTMLのdlタグをそのまま使う。

```
<dl>
  <dt>リンゴ</dt>
  <dd>赤いフルーツ</dd>
  <dt>オレンジ</dt>
  <dd>橙色のフルーツ</dd>
</dl>
```

みたいになると

リンゴ

赤いフルーツ

オレンジ

橙色のフルーツ

こうなる。

加えて、Definition型のリストではMarkdown記法が使えない。例えば

```
<d1>
  <dt>リンゴ</dt>
  <dd>とても**赤い**フルーツ</dd>
</d1>
```

とすると、

リンゴ

とても**赤い**フルーツ

こうなる。

Definition型リスト内では代わりにHTMLタグを使わないといけけないので

```
<d1>
  <dt>リンゴ</dt>
  <dd> とても<strong>赤い</strong>フルーツ </dd>
</d1>
```

リンゴ

とても**赤い**フルーツ

こうなる。

Markdown記法とHTMLタグの対応は以下のようにになっている。

修飾	Markdown	HTML
ボールド	** **	<code></code>
イタリック	<i>--</i>	<code></code>
コード	<code>``</code>	<code><code></code></code>
リンク	<code>[text](url)</code>	<code>text</code>

Checkbox型

Disc型の記述の後ろに[]を入れるとチェックボックスができる。チェックが入った状態のボックスを生成するときは[x]にする。前後にスペースがいる

Blockquotes - 引用

文頭に > を置くことで引用できる。
複数行の時は改行のたびにこの記号を置く必要がある。
引用の中で他のMarkdownを使うこともできる。

引用の中で引用もできる。

二重引用を解除するには上みたいに一つ置かないといけない
引用自体はおかなくても行けるけど、視認性のために置いたほうがいい
一つ空行を置くことで解除できる。

こんな感じに

Horizontal rules - 水平線

これらは全部水平線になる

```
* * *  
***  
- - -  
-----
```

こんな感じの線になる

Links - リンク

- リンク付きテキスト
[リンクテキスト](URL)
これでクリックするとURLに飛ぶテキストが作れる
例 :

Markdown: [Qiita](<http://qiita.com>)

結果: [Qiita](http://qiita.com)

- タイトル付きのリンクを作れる
[リンクテキスト](URL "タイトル")
この時文面に出てくるのはリンクテキストで、タイトルはマウスホバーすると表示される。
例 :

Markdown: [Qiita](<http://qiita.com> "Qiita Home")

結果: [Qiita](http://qiita.com)

- 同じURLのリンクを複数設置

[リンクテキスト][名前]

[名前]:URL

これで同じURLへのリンクを複数設置できる

例 :

Markdown:

[ここ][link-1]と[この][link-1]は同じ。

[link-1][]もできる

[link-1]:http:qiita.com

結果 :

[ここ][link-1] と [この][link-1] は同じ。

[link-1][] もできる

[link-1]:http:qiita.com

なぜかできないけど

Images - 画像埋め込み

2パターンある

- タイトルなしの画像
![代替テキスト](画像のURL)
- タイトルありの画像
![代替テキスト](画像のURL "画像のタイトル")

Markdown: ![Qiita](<https://qiita-image-store.s3.amazonaws.com/0/45617/015bd058-7ea0-e6a5-b9cb-36a4fb38e59c.png> "Qiita")

結果:



テーブル記法

Left align	Right align	Center align
:-----	-----:	:-----:
This	This	This
column	column	column
will	will	will
be	be	be
left	right	center
aligned	aligned	aligned

これがこれになる

Left align	Right align	Center align
This	This	This
column	column	column
will	will	will
be	be	be
left	right	center
aligned	aligned	aligned

二段目の「:」の位置で左寄せ右寄せ中央が決まる。

数式

コードブロックに「math」を付けるとTex記法を使って数式をかける。

```
```math
\left(\sum_{k=1}^n a_k b_k \right)^{!!2} \leq
\left(\sum_{k=1}^n a_k^2 \right) \left(\sum_{k=1}^n b_k^2 \right)
```
```

$$\left(\sum_{k=1}^n a_k b_k\right)^{!!2} \leq \left(\sum_{k=1}^n a_k^2\right) \left(\sum_{k=1}^n b_k^2\right)$$

\$2^3\$みたいに文中に埋め込むこともできる。すると2³となる。

コード

コードみたいに埋め込むこともできる。

`printf()`みたいにラップすると `printf()` となる。

これでも行ける

ブロックで入れることもできるその場合は``で囲む。

```
``ruby:qiita.rb
puts 'The best way to log and share programmers knowledge.'
``
```

これが

```
puts 'The best way to log and share programmers knowledge.'
```

こうなる。

その他

プレビューで `<p data-line="232" class="sync-line" style="margin:0;"></p>` と表示されることがあるけど、バグ。PDFに変換するとなくなる。